

皮膚科ホームページにおける公開文書

●研究課題名:顔面神経露出温存手術における術後顔面神経麻痺に関する後方視的研究

●研究機関名・研究者名:筑波大学医学医療系皮膚科 講師 藤澤 康弘

●研究の意義、目的:頭頸部の良性・悪性腫瘍の外科治療において、時に顔面神経の露出を余儀なくされる症例が少なからず存在する。大半の症例においては、顔面神経露出術により腫瘍は完全摘出できる場合が多いものの、術中の牽引操作により一過性麻痺を生じうる。さらに神経温存してもまれに永続性麻痺をきたす可能性もある。頭頸部手術時の際に顔面神経を安全に温存することは患者の機能、整容面からも術後の生活の質に大きく寄与するが、皮膚科領域における顔面神経麻痺の回復時期についての過去の報告はほとんどなく、耳鼻科領域における耳下腺腫瘍切除後の術後顔面神経麻痺の報告に頼らざるを得ない。一般に皮膚科領域における顔面神経露出・温存術は耳下腺腫瘍切除時に比べてより末梢の細い神経露出を要することが多く、患者に対して術後麻痺に関する正確な情報を提示できない状況にある。そこで、頭頸部腫瘍手術時に顔面神経を露出温存した症例の術後顔面神経麻痺の頻度、回復時期について解析し、顔面神経温存術における術後神経麻痺の正確な頻度と回復時期、および技術的改善点につき明らかにする事を目的とする。

●研究の対象となるのは、2007年4月から2014年8月までの間に筑波大学を受診し、頭頸部の手術で顔面神経が露出するような手技を伴った症例

●研究対象者:以下の情報を収集する。

患者年齢、性別、疾患、原発巣の部位、術式、顔面神経の露出法、顔面神経の露出部位、顔面神経の回復期間、局所再発の有無、生存期間、全観察期間
なお、研究期間は倫理委員会承認後～2016年3月31日とする。

●個人情報の開示手続き:筑波大学附属病院における倫理委員会による承認を得たうえで患者情報を収集し解析を行う。なお、解析に際して個人を特定できる情報は削除されており個人情報が開示されることはない。

●個人情報の問い合わせ・苦情等の連絡先:筑波大学医学医療系皮膚科 電話 029-853-3128
担当:藤澤 康弘

*参加を希望しない場合も上記に連絡してください